

商工会 ExpressNews 9月増刊号

景気回復のかすかな足音が聞こえています



【トマト人気ランキング】 飛騨トマトは第7位

日経 MJ が主要スーパーのバイヤーを対象に行ったトマトの人気ランキング調査によると、高知県の『シュガートマト』が1位となった。全国の主要25ブランドトマトを対象とし、味・鮮度・色（見た目）等16項目について評価された。1位となったシュガートマトは、糖度8度以上（通常は5度程度）と甘みが強いのが特徴で酸味とのバランスも良く“味”の評価が最高でした。通常のトマトは、水に浮きますがシュガートマトは果肉がぎっしりと詰まっているため水に沈むとの事。当地域の『飛騨トマト』も7位と健闘しました。バイヤーからは、「高糖度の品種をふやしたい」という声が目立っていたそうです。

トレンド・ナウ カットフルーツ

果物を切って盛り合わせるカットフルーツが人気を集めています。カットフルーツ自体は以前からありましたが、皮をむかずにすぐに食べられる手軽さが核家族化・孤食化（一人で食べる）の時代にマッチしているのかもしれませんが。傷ついて店頭になべられない規格外品の有効活用に繋がるため、農業関係者の期待も大きいようです。

▶加熱式たばこ戦国時代

既に喫煙者の1割以上が使っているとされる加熱式たばこ。先発の「アイコス」に続きJTの「プルーム・テック」英国の「グロー」と愛煙家の争奪戦が繰り広げられています。それぞれに味や使用方法に差があるようです。あなたは、どれを選びますか？

▶景気回復？「家飲み派」減少

アサヒグループホールディングスの生活文化研究所が行った調査によると、居酒屋等ではなく自宅で飲酒や晩酌をする「家飲み」が若干減少しているという結果が出ています。多少景気が良くなっているという現象の一つのようです。ただし1ヶ月の家飲み代は、全体の6割以上が5,000円未満でやりくりしているようです。耳が痛い方が多いのでは・・・。

お気軽にお電話下さい！

高山北商工会本所 ☎72-4130

☎丹生川 78-2002 / ☎上宝 86-2354

雇用改善と個人消費回復で内需拡大！

内閣府が公表した本年4～6月のGDP(実質国内総生産)は4.0%増加しました。この要因は、人手不足で雇用の需給が引き締まり、企業が省力化への設備投資に動いたこと、景況感が良くなった消費者が耐久消費財等(エアコン・自動車)の購入等に前向きになったことが挙げられます。有効求人倍率が1.5倍を超え雇用情勢の改善で景況感に明るさが見え、外食などへの支出も伸びたようです。

戦後3番目の長さとなった今回の景気回復は、これまで輸出が伸びる外需主導型でしたがようやく内需の回復を感じられるようになってきました。しかしながら、8月の冷夏で衣料品等夏物の売上不振が足を引っ張らなければよいのですが。

地域の人口動態(合併時と比べてみました)

	人口		
	H17	H29	増減
国府	7,946	7,588	△358
丹生川	4,806	4,362	△444
上宝・奥飛騨	3,861	3,040	△821
合計	16,613	14,990	△1,623

合併後12年間で、管内の人口は1,623人減少していますが、世帯数は434世帯増加しています。つまり核家族化に拍車がかかっているということです。1世帯当たりの人数も3.5人→2.9人に減少しています。国府・丹生川は人口減で世帯数増。上宝・奥飛騨は人口・世帯数とも減少しています。

新設住宅着工戸数(高山市・飛騨市)

